

「ペトロ、死者を生き返らせる」

2024年02月09日

ペトロはそこをたつて、一緒に出かけた。ペトロが到着すると、人々は階上の部屋に案内した。やもめたちは皆そばに寄って来て、泣きながら、ドルカスと一緒に作った数々の下着や上着を見せた。ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。ペトロは彼女に手を貸して立たせた。そして、聖なる者たちとやもめたちを呼び、生き返ったタビタを見せた。このことはヤッファ中に知れ渡り、多くの人が主を信じた。ペトロはしばらくの間、ヤッファで皮なめし職人のシモンと言う人の家に滞在した。（使徒9：39～43）

エルサレム教会はユダヤ教徒から迫害されていたが、使徒たちは教会に留まり続けていた。使徒たちの中で、ペトロは教会の重責を担う使徒として尊敬を集め、権威を持つ人とされた。ペトロの活躍と権威を表わす記述が12章までに書かれている。

ペトロは諸教会を巡回し、リダに住んでいる聖なる者（イエス信者）たちの所へ行った。リダはエルサレムから西北40キロほどの町である。そこに、体が麻痺して8年間も床に着いていたアイネアと言う人がいた。ペトロは彼女に会い、「アイネア、イエス・キリストが癒やしてくださる。起きなさい。自分で床を整えなさい」と言うと、彼女はすぐに起き上がった。この地に住む人々は皆、ペトロが行った癒やしを見て、主に立ち返った。主イエスが行った奇跡をペトロも同じように行った。ただし、ペトロの力ではなく、主イエスが癒やして下さったと伝えている。

リダから北西18キロくらいの所にヤッファと言う海岸都市があった。この町に、ヘブライ語でタビタ、ギリシア語でドルカスという女の弟子がいた。彼女は数々の善い行いや施しをし、人々から愛されていた。ところが、彼女は病気になって死んだので、人々は遺体を清めて屋上の部屋に安置した。弟子たちは、ペトロがヤッファに近いリダにいると聞いて、二人の人を遣わし「どうか、私たちのところに来てください」と、慰められることを求めた。ペトロは招きに答え、リダを発って、ヤッファに向かった。ペトロが到着すると、人々は階上の部屋に案内した。やもめたちはそばに寄って来て、泣きながら、タビタと一緒に作った数々の衣類を見せた。ペトロは皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタよ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。ペトロは彼女に手を貸して立たせた。そして、仲間の信者たちとやもめたちを呼び、生き返ったタビタを見せた。

この奇跡は、ルカ福音書8章に書かれている、会堂長の死んだ娘の手を取って、主イエスが「子よ、起きなさい」と呼びかけると、霊が戻って、娘は起き上がったという奇跡に類似している。そして、列王記上17章に書かれている、エリヤがサレプタのやもめの息子が病気になり息を引き取った時、「わが神、主よ、どうかこの子の命を元に戻してください」と祈り、生き返った奇跡が下敷きになっている。著者ルカは、ペトロには死人を生き返らせる権能が与えられ、このような働きをし、神の権威が付与されていたと伝えている。ヤッファでは、ペトロの行った奇跡が知れ渡り、神への畏れが湧き、多くの人々が主を信じた。ペトロはしばらくの間、ヤッファで皮なめし職人のシモンと言う人の家に滞在した。皮なめしは最も汚れた職業とされていた。次の10章では「汚れた」と見なされた異邦人コルネリウスへの宣教へと繋げていく。